

幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 七 月

子 ども が 歸 っ た 後

子どもが歸つた後、その日の保育が済んで、まづほつこするのはひき時。大切な
はそれからである。

子どもこいつしよにゐる間は、自分のしてゐるこゝを反省したり、考へたりする暇
はない。子どもの中に入り込み切つて、心に一寸の隙間も残らない。たゞ一心不亂。

子どもが歸つた後で、朝からのいろ／＼のこゝが思ひかへされる。われながら、は
つこ顔の赤くなるこゝもある。しまつたこゝ急に汗の流れ出るこゝもある。あゝ濟まな
いこゝをしたこゝ、その子の顔が見えて來るこゝもある。——一體保育は……。一體
私は……。こゝまで思ひ込ませられるこゝも常である。

大切なのは此の時である。此の反省を重ねてゐる人だけが、眞の保育者になれる。
翌日は一歩進んだ保育者として、再び子どもの方へ入り込んで行けるから。

子どもが歸つた後で、此の反省をしない人。疲れて、ほつこして、けろりこして、
又疲れて、ほつこして、けろりこして、同じ日を重ねるだけの人。その日ぐらしの
人に進歩はない。

夏やすみにも、此の同じ意味の大切さがある。